

県内百貨店・主要小売店11月実績

●百貨店	売上高		客数
岐阜高島屋	8.0		3.5
●小売店	売上高		客数
	全店	既存店	
バロー	7.4	6.0	1.2
Vドラッグ	5.0	3.7	0.2
ホームセンターバロー	2.0	1.8	▲2.6
セリア	6.4	2.3	3.1
ヒマラヤ	0.1	▲0.3	▲4.8

※数字は前年同月比の増減率。▲はマイナス。Vドラッグは中部薬品など3社の合計。ホームセンターバローはホームセンターバローなど3社の合計

県内に拠点を置く百貨店・主要小売店の11月上高実績（速報値、小売店は全店売上高）は、6社全てが前年同月を上回った。

岐阜高島屋は来年7月末閉店を発表後、売上高、客数ともに堅調に推移している。

バローは継続的な店舗リニューアルの効果が、既存店は好調を持続する。地域イベントの復活で弁当と飲料が伸長した。Vドラッグは新型コロナウイルス5類移行に伴う行



百貨店小売店 全6社 前年上回る
11月の売上高

動変容もあり、化粧品や風邪薬がけん引する。ホームセンターは物価高の影響でペットフードや食品といった生活必需品が好調だったが、家電や家具など耐久消費財は低迷が続く。既存店売上高は7月以来のプラスだった。

セリアは集客型商業施設内の店舗が好調。既存店売上高は4カ月ぶりのプラスで、掃除グッズを中心に日用品に需要があった。コロナ禍以前の購買行動に戻りつつある。

ヒマラヤは低温になり、秋物ウエアが回復。セール時期と重なり、物価高で購買意欲が低い消費者をつかんだ。